

今春、AICJ高校を卒業しました！



IBディプロマコース

高田 佳歩 さん

早稲田大学 政治経済学部 進学

- 福山暁の星女子中学校出身
- 高1で英検準1級取得
- IELTS 6.5
- 生徒会副会長
- 高1の夏に2カ月間のNZ語学研修参加
- グローバル未来塾 inひろしま第1期生
- チャリティー・コンサート in Fukuyama 主催



私は、今年の3月に私立AICJ高等学校を卒業した高田佳歩です。私がこの3年間で学んだことは、「可能性は無限大」ということです。私自身、3カ年生とって、高校からAICJ高校に入学した者で、初めは、英語で行われる授業に対して抵抗や、戸惑いが隠せませんでした。しかし、国際バカロレアを履修したことに後悔はありません。むしろ、この選択をしたことを今では、誇りに思っています。国際バカロレアで学んだことを今回は、紹介させていただきます。

はじめに、国際バカロレアをしていて良かったと思えることは、「計画性が自然と身につく」ということです。国際バカロレアは、国内コースとは異なり、授業を受けるだけでなく、自身で実験を行ってレポートを書くことや、CASといった課外活動も必須です。勉強をするのみでは、国際バカロレアを合格することはできません。また、質の良いものが求められるため、期限直前に初めて間に合わせても、意味は全くありません。ここで、Time Managementが求められるのです。

そして私がIBを履修して、最も大事だと思ったことは、「可能性は無限大」ということです。私は、高校に入学する前には、海外経験もなく、英語も中学生の一定のレベルでした。このような経験値が低い私でも、高校生の間に、ニュージーランドやオーストラリア、フィリピンに行くことができました。中でも、オーストラリアでの経験は、とても私の将来を決める重要なものだったと言えます。QUT（クィーンズランド工科大学）の大学院に留学して、最先端医療の生の現場を見ることができました。海外の医療は、日本の医療の10年先を行くと言われるほどの、技術を持っています。この経験が、私が昔から興味を持っていた、医学という道を開拓したと言えます。

ここで、読者の皆さんは、なぜでは私は早稲田大学の政治経済学部に進学したのかという、疑問を抱いたことでしょうか。私自身、中学生の時の目標校が、早稲田大学の政治経済学部でした。IBのスコアは、永久不滅であり、学びたいものが変われば、IBのスコアを使い、いつでも多数の大学や学部にも、出願することもできます。これも、IBの最大の魅力と言えるでしょう。私は、はじめに元々学ぶ予定だった、政治や経済について学び、のちに医学をIBスコアを使って学ぶ予定です。

私は、IBを履修して人生を考える尺度が、大きく変わったと言えます。皆さんも、英語に自信がなくとも、少しでもIBに興味があるのなら、履修することを強くお勧めします。

今春、AICJ高校を卒業しました！



土井 知哉 くん

東京工業大学 第7類 進学

- 東広島市立高美が丘小学校出身
- 中学から本格的に英語を学ぶ
- 中1で英検4級から準2級まで取得
- 中2で英検2級取得 ■ 高1で英検準1級取得
- バレーボール部所属
- 中2の夏に2カ月間のNZ語学研修参加



【2018年3月9日(木)インタビュー】
(インタビュアーは担任の戸田先生)

土井：『僕の受験での戦略は「英語で稼ぐ」でした。ネイティブの先生の授業や課題で読み・書き・文法を、朝の単語テストで単語を、中学の時点でほぼ完成させました。そのおかげで、高校では受験対策に十分に時間をかけて取り組みました。このあたりはAICJで本当によかったと思っています。AICJに入学することを決めたのも、「英語を習う」ではなく「英語で習う」という点に惹かれたことが大きなポイントでした。』

先生：『確かに、英語の点数は、リスニングを含めていつも安定して高得点だったね。』

土井：『英語が安定していたから、多少失敗する科目があっても英語で補えると思って安心できました。模試の平均点を見ていると、理系に進もうとする人は英語が苦手な人も多いのか、英語の平均点はそれほど高くない場合も多いです。理系の受験生こそ英語で点数を稼げると差がつけられていいと思います。』

先生：『理系の人は将来的に英語で論文を読むことになるだろうし、早めに英語は身につけてしまうといいよね。』

土井：『あとは、僕は物理が本当に苦手だったんですが、英語ができていたおかげで、勉強時間を苦手な物理に多めに割く事ができたのもよかったです。問題集を何周も解きなおして弱点の克服に努めました。』

先生：『確かに、授業で物理を担当していたけど、一年間かけてどんどん伸びていくのが感じられたよ。』

土井：『疑問に思ったことは先生に聞きに行ったりして早めに解決しつつ、課外授業で重要なポイントを効率よく教えてもらったのもあって、最終的には物理も東京工業大学の問題が解けるレベルまでできるようになりました。』

先生：『なるほど。そういえば、土井くんはニュージーランドへの短期留学にも行っていたよね。』

土井：『そうですね。ニュージーランドへの短期留学では、色々な人と接することで世界の広さを感じることができ、非常にいい体験ができたと思っています。英語力に関して、自分ではそれほど急に英語力が伸びた実感は無かったのですが、外国人の先生との会話で英語の表現が自然に出てくるようになっていたり、テストの点数が伸びていたり、日本に帰ってきてから驚かされました。』

先生：『留学もいいことがたくさんあるね。じゃあ今度は今後のことも聞いておこうか。東京工業大学の第7類というと、生命理工学系の分野だね。将来はどんなことをやっていくのかな？』

土井：『医学部ではないのですが、医療に関連する分野もあるようなので、そういう分野に興味を持っています。将来は企業か大学で研究職につきたいです。』

先生：『今日はインタビューに応じてくれてどうもありがとう。これからも頑張るね！』

土井：『はい、頑張ります！』 二人：(笑顔!!)